



人の輪と集落の和

平成22年度事業報告書 平成23年度事業計画書



目 次

○ ごあいさつ	1
○ 第12回通常総会次第	2
○ 第12回通常総会提出議案	3
○ 平成22年度事業報告書	
部門別事業報告	4～15
貸借対照表	16
損益計算書	17～19
平成22年度剰余金処分案	20
附属明細書	21～22
監査報告書	23
○ 第五次3ヵ年事業計画	24
○ 平成23年度事業計画書	25～32
○ 組織図	33
○ 組合員名簿	34

組合員のみなさまへ

本日ここに第12回の通常総会を開催するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

平成22年度は、全国農業コンクール全国大会での優秀賞受賞という快挙で沸いた一年でした。発表の伴理事、応援に駆けつけた理事、遠くから声援いただいた組合員および関係各位の皆様、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

事業面では、戸別所得補償による米価の下落と夏の登熟期の稀にみる猛暑による異常高温により、背白粒や下部未熟粒が多発し品質低下となり、一等米の出荷量が激減したことによる大幅な減収要因となりました。

また、麦作においても天候不順による品質低下と収量低下、ただし、大豆においては一部播種作業が遅れたものの、その後の栽培管理により種子大豆においては収穫量が確保でき、品質面でも良質大豆が生産でき収益面で増収に大きく貢献することができました。

さらに、「平成21年度集落営農法人化等緊急整備事業」が当期3月に完了し、それに伴う補助金が充当されたことにより、補助金を特別利益として計上することができ、結果として当期の収益減を大幅に補うこととなり経営を改善することができました。

わが国は、「環太平洋経済連携協定(TPP)」への参加を表明しています。開国か国内農業の保護かを迫られているのです。TPPが発効されると一定期間後は全ての関税が撤廃されることになり、日本農業は今まさに崩壊の危機にあります。組合としても断固として反対すべきことです。

農業の保護は、単に国内農家の保護だけでなく、食糧備蓄や食料自給率の向上など国家安全保障の観点からも他産業とは区別されなければなりません。

ただ、全産業から見た場合、国内総生産(GDP)に占める農林水産業の割合は1.5%(08年)、全就業者に占める農業就業者の割合は3%しかありません。

また、貿易の自由化圧力だけでなく、コメ余りによる米価下落がさらに追い打ちをかけています。人口減少時代に入り、国内市場の縮小は止まりません。

つまり、生産者からではなく消費者から見た場合、日本の農業を守ると同時に、自らの力で自らの農業を強くすることが農業者の使命なのです。

わが組合は、発足当初から「農家」から脱却し、「農業経営」を目指してまいりました。しかし、集落営農の甘えと古い体質から完全に抜け出せていないのも事実です。「作れば売れる」時代は終わったのです。これからは、「売るものを作る」意識と「自立」した強い組織が不可欠です。

集落営農の目的は、食を守ること、組合員を守ることですが、農地を含めた農村集落を守ること、さらには集落およびその地域を活性化することにあると考えます。年配者の知恵と若者の機動力を生かす現在の仕組みの良さを残しつつ、次の世代に引き継ぐ強い組合を確立してまいります。

平成23年2月27日

人は、人の為にならずして、人にあらず

農事組合法人 酒人ふあ〜む
代表理事

小林伊佐治

第 1 2 回通常総会次第

と き：平成 2 3 年 2 月 2 7 日（日）

午後 1 時 3 0 分より

ところ：酒人公民館 2 階大広間

1. 開会のことば
2. 代表理事あいさつ
3. 来賓ご祝辞

（ 休 憩 ）

4. 総会成立宣言
5. 議長の選任
6. 書記の指名
7. 議事
8. 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	56人	出席人数	人
------	-----	------	---

第12回通常総会提出議案

第1号議案 平成22年度事業報告について
平成22年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、
剰余金処分案及び附属明細書の承認について
P 4～P 23

第2号議案 第五次3ヵ年事業計画
(平成23年度～平成25年度)
および平成23年度事業計画の承認について
P 24～P 32

附帯決議 この総会において決議した事項のうち、行政庁に提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、その趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成23年2月27日

農事組合法人 酒人ふあ～む
代表理事 小林 伊佐治

平成22年度事業報告書

部門別事業報告

生産部

[栽培]

昨年は、宮崎県で口蹄疫の発生や米の個別所得補償モデル対策の開始に伴う米価の下落と12月末には、農業を脅かすTPP発言等農家にとって先が見えない一年でした。農業面においては、春先の低温・日照不足に続いて全国的な夏の激しい猛暑の影響により22年産米の作況は全国では「98」となりましたが、滋賀県においては平年並みの「100」で推移しました。ただ、品質面においては、過去に例の無い状況となりました。

我が集落においては、品質環境に配慮した農業、コスト意識の徹底、的確な栽培管理を目標に取り組みました。

生産物別に報告しますと、水稻については、移植後の苗の初期成育は遅れたものの6月の気温の上昇により生育の回復は図れましたが、梅雨明け以降の7月下旬から9月中旬までの登熟期の猛暑の影響と考えられる基部未熟粒及び背白粒が多く発現しました。特に中生品種での発生は顕著でした。

また、羽二重糯においては、褐変穂や除草効果の低下により計画を大きく下回る結果となり、安定した収量確保に向けた取組の必要性を感じました。

稲わら供給事業は、水稻の収穫後の天候にも恵まれ、早生品種を中心にすこやかグループを主体に取り組みました。ただ、中生品種の一部や羽二重糯作付け圃場の刈取後の条件が悪く稲わらを取ることが出来ず計画には届きませんでした。

麦については、播種直後の11月、2月、3月の降雨による湿害での茎数不足や4月、5月にかけての低温により子実の充実が悪く収量にも影響いたしました。

品質面においては、タンパク、容積重が基準値を満たすことが出来ず、より安定した栽培管理に努める必要性を感じました。

大豆については、「種子大豆」「一般大豆」とも猛暑による水分不足により粒の充実不足により収量減を招きました。又、播種の遅れや中耕培土の遅れによる収量低下を招きました。今後の雑草対策、病虫害対策等課題を多く抱えた年でした。選別についてはすこやか営農グループの皆様に連日、最後の磨きをかけて頂きました。

野菜については、両グループとも作物品種を増やしていただき精一杯の取組をしていただきました。南瓜や一部の野菜においた収穫前の天候不順、病気の発生、ハウス野菜は夏の猛暑による生育障害等が発生いたしました。また、本年より期待していたイチジクについては、収穫体制を考える年になりました。ただ、酒人ふぁ〜むとして日々の現金収入を支えているのは野菜栽培であることは事実です。



①穀類生産実績

水 稲	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
うるち玄米	1,438	77,670	1,294	9.0	1,438	67,560	1,126	7.8
もち(羽二重)玄米	604	30,840	514	9.0	604	20,340	339	5.6
合 計	2,042	108,510	1,808	9.0	2,042	87,900	1,465	7.1

小 麦	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
農林61号	1,765	52,980	883	5.0	1,765	49,914	832	4.7
合 計	1,765	52,980	883	5.0	1,765	49,914	832	4.7

大 豆	計 画				実 績				
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量			
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反	
ふくゆたか	種子用	1,262	22,725	379	3.0	1,262	17,400	290	2.3
	食糧用	626	13,150	219	3.5	604	6,000	100	1.7
合 計	1,888	35,875	598	3.17	1,866	23,400	390	2.0	

②野菜栽培形態別生産実績 (年間)

露 地	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	箱・kg	箱/反		収量 (kg)	箱・kg	箱kg/反
ブロッコリー	55.0	2,750	550箱	100箱	35.0	1,280	231箱 125kg	
白 菜	35.0	10,500	700箱	3,000kg	40.4	15,113	930箱 1,163kg	
えびす南瓜	50.0	6,000	600箱	120箱	40.0	840	84箱	16箱
いちじく	23.6		1500パック		23.6	0	825パック	
たまねぎ	7.0	700	70箱	100箱	0.0			

※実績数値については、21年度産秋冬野菜の売上を含む。

※主要野菜の他に馬鈴薯、畑を利用し早芋、かんぴょう等を栽培しました。
又、キャベツについては、40a栽培しましたが、23年度売上になります。

ハ ウ ス	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/a		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/a
小 松 菜	10.0	1,200	6,000袋	600袋	10.0	1,202	6,012袋	601袋
こかぶ	5.0	2,500	250箱	50箱	0.0			
にんじん	8.0	2,400	2,400袋	300袋	2.0		395袋	198袋
ト マ ト	4.0	1,600	400箱	100箱	4.0	360	91箱	23箱

※実績数値については、21年度産秋冬野菜の売上含む。

※その他畑を利用しとうもろこしやモロヘイヤ等5作物を栽培しました。

③耕畜連携稲わら生産実績（JA稲わら生産供給組合）

稲わら	計 画				実 績			
	採集 面積 (a)	生産量			採集 面積 (a)	生産量		
		収集量 (kg)	梱包 (10kg)	梱包/反		収集量 (kg)	梱包	梱包/反
飼料用稲わら	1,200	48,000	4,800	40	600	11,219	1505	25
合 計	1,200	48,000	4,800	40	600	11,219	1505	25

実績…今年度よりパレットによる重量出荷

[労 務]

昨年に続き就業状況の悪化からか、集落外より就農希望者が後を絶たない今日ではありますが、「我が集落は我が集落民で護る」の言葉のとおり、オペレーターの活躍に期待を期待をして外部労働力の導入は行わずにきました。ただ、少しオペレーターとしてのミッション認識が薄れてきており、今後の対策が必要です。

にもかかわらず、若年オペレーターの参加が少しではありますが増え、今後の集落営農として明るい兆しを見せてきた1年でした。一方、年齢上昇中のすこやか、なごやか営農グループの皆様にはしっかり汗をかいていただきました。

労働力の見直しが懸念され、体制整備中のなかで労働時間の縮減に取り組み、歯を食いしばって戦った結果が下表の通りです。

労務管理実績表

(単位：時間)

	計画	実 績					計画比 (%)	
		役員・OP	すこやかG	なごやかG	その他	合計		
穀類	水 稲 (7品種)	2,830	2,286	265		173	2,724	96.3%
	稲わら生産収集	400	134	22		38	194	48.5%
	小 麦 (農林61号)	660	484	44		20	548	83.0%
	大 豆 (種子・一般食糧)	3,340	889	2,287		11	3,187	95.4%
	計	7,230	3,793	2,618	0	242	6,653	92.0%
野菜	露 地 (5品種)	3,590	717	2,479			3,196	89.0%
	ハ ウ ス (3品種)	2,060	85	18	1,227		1,330	64.6%
	計	5,650	802	2,497	1,227	0	4,526	80.1%
共 通 (営業・事務・機械施設管理)	1,500	1,620	59			1,679	111.9%	
合 計	14,380	6,215	5,174	1,227	242	12,858	89.4%	

営 業 部

農業政策が大きく方向転換していく中で、営業部は、米の販売促進に向け営業活動を行ってまいりました。区外への販売システムを確立すべく、縁故米販売促進及び近隣消費者へのアピールとして、3月に作成しました「まるごと酒人ふぁ〜む」のパンフレットを配布し、米販売用ハガキのポスティングを実施しました。結果的には営業部の思惑どおりにはいきませんでした。これを機に来年度も「地産地消」を合言葉に、地元消費者へのアピールを強め、営業活動の強化を図ってまいります。

①穀類市場（マーケット）別実績

水 稻		計 画			実 績			
		出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
業 販	うるち玄米	694	12,500	8,675	586	10,400	6,094	70%
	もち(羽二重)玄米	494	15,000	7,410	331	15,400	5,097	69%
	過年度精算		-	-	-	-	2,000	-
	小 計	1,188	13,540	16,085	917	14,494	13,291	83%
直 販	うるち玄米	600	16,500	9,900	540	15,600	8,424	85%
	もち(羽二重)玄米	20	20,000	400	8	20,200	161	40%
	小 計	620	16,610	10,300	548	15,666	8,585	83%
合 計		1,808	14,590	26,385	1,465	14,932	21,876	83%

(実績については、くず米の収入及び過年度の精算見込みと農業共済金を含んでいます。)

小 麦 農林61号	計 画			実 績			
	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
業 販	883	1,500	1,325	832	1,579	1,314	99%
過年度精算	-	-	-	-	-	-	-
直 販	-	-	-	-	-	-	-
合 計	883	1,500	1,325	832	1,579	1,314	99%

(実績については、くず麦の収入及び過年度の精算見込みと農業共済金を含んでいます。)

大 豆 ふくゆたか	計 画			実 績				
	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)	
業 販	種 子 用	379	25,000	9,475	290	24,300	7,047	74%
	食 糧 用	219	3,000	657	100	3,230	323	49%
	過年度精算	-	-	-	-	-	-	-%
	小 計	598	16,940	10,132	390	18,897	7,370	73%
直 販	種 子 用	-	-	-	-	-	-	-%
	食 糧 用	-	-	-	-	-	-	-%
	小 計	-	-	-	-	-	-	-%
合 計		598	16,940	10,132	390	18,897	7,370	73%

(実績については、くず大豆の収入及び過年度の精算見込みと農業共済金を含んでいます。)

②野菜栽培形態別販売実績

野 菜	計 画			実 績				
	出荷量	単価 (円)	販売高 (千円)	出荷量	単価 (円)	販売高 (千円)	対比 (%)	
露 地	ブロッコリー	550箱	1,000	550	256箱	814	188	34%
	白菜	700箱	700	490	1,007箱	785	730	149%
	キャベツ	—	—	—	—	—	—	—
	えびす南瓜	600箱	1,000	600	84箱	950	80	13%
	いちじく	1500パック	400	600	825パック	200	164	27%
	その他野菜						60	
	小計	—	—	2,240	—	—	1222	55%
ハ ウ ス	小松菜	6,000袋	70	420	6012袋	68	413	98%
	ほうれん草	袋	—	—	—	—	—	—%
	こかぶ	250袋	750	188	—	—	—	—%
	にんじん	2,400箱	120	288	395本	93	37	13%
	トマト	400箱	1,050	420	91箱	1,000	91	22%
	その他野菜	—	—	—	— 袋	—	84	—%
	小計	—	—	1,316	—	—	625	47%
合 計	—	—	3,556	—	—	1,847	52%	

野菜市場（マーケット）別販売実績

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (—)	販売高 (千円)
	数量 (東、箱)	販売高 (千円)	数量 (東、個)	販売高 (千円)	数量 (袋、東、個)	販売高 (千円)	数量 (東、個、箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	230	166	1	1	250	21	—	—	256	188
白 菜	930	638	—	—	918	92	—	—	1,007	730
イチジク	713	143	40	5	72	16	—	—	825	164
南瓜	84	80	—	—	—	—	—	—	84	80
小松菜	5,050	337	—	—	962	76	—	—	6,012	413
にんじん	—	—	200	20	195	17	—	—	395	37
トマト	—	—	20	21	325	70	—	—	91	91
その他	—	61	—	—	—	83	—	—	—	144
合計	—	1,425	—	47	—	375	—	—	—	1,847

※業販=JA・市場等への業者を通じた販売(学校給食含む)

直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

③耕畜連携稲わら販売実績（JA甲賀郡稲わら生産供給組合）

稲 わ ら	業	販	出荷量(梱包)	※出荷単価(円/kg)	販売高(円)
	飼料用稲わら	引 取			
			1,505	40	596,500
			—	—	—
	合	計	1,505	40	596,500

機械施設部

「経営体育成交付金」を活用するため、甲賀市マスタープラン助成を申請していましたが、政策の変更による制度修正のため農商工連携の設備投資はできませんでした。下記のとおり必要最低限の修繕工事にとどまりました。

また、11月には県税事務所による免税軽油使用者調査があり、対象機械の見直しをすることができました。あわせて、役員やオペレーターに、軽油使用時に使用機種と使用量の記録を再徹底しました。

オペレーターの農業機械および乾燥施設の操作技術習得については、マニュアル化できず、結果として熟練オペレーターに頼らざるを得ない状況でした。

機械の経年化で、修繕費は依然減らない状況にあるも、保守管理契約を含めた見直し検討ができなかったことは反省点です。

① 施設環境整備

(単位:円)

取得資産名	取得額	支払方法	発注先
事務所通路改修工事	135,765	自己資金(現金一括)	岩上産業(株)
ハウス開き戸改修工事	208,000	自己資金(現金一括)	(株)太田種苗
ハウスビニール張り替え※	559,580	自己資金(現金一括)	(株)太田種苗

② レンタル契約終了に伴う取得物件

(単位:円)

※平成12年5月31日～平成21年12月15日リース期間満了のため

No.	物 件	取得額	取得月	譲渡者
1	パイプハウス 計4棟	無償譲渡	22年3月	J A 甲賀
2	給水装置一式			
3	ハウス内灌水設備一式 計4棟			
4	進入道路盛土工事 排水溝 一式			
5	TCMフォークリフト2t 1台			



軽油給油時の注意事項

①メーター表示「0」にリセット



②給油時「ON」終了時「OFF」



③「軽油使用控簿」ノート記入



- ① 給油日
 - ② 給油した機械名
 - ③ 給油量(L)
 - ④ 給油者名
- 給油記録を忘れずに!

機械施設部長

企画管理部

【主に取り組んだ内容】

①法人による農地取得

酒人字砂土井 1370 番地 田 3,083 m² 2,312,250 円 (750 円/m²)

農用地利用改善団体の斡旋と 10 月 17 日開催の臨時総会決議を経て、理事会で審議を重ね、総会でもありました組合員のご意見に極力沿った価格となりましたのでご報告申し上げます。

なお、「酒人の農地はできる限り手放さない」よう、農用地利用改善団体もまた当組合も切に願うところであります。ご理解とご協力をお願いします。

②自己資本の充実強化

上記に伴い、組合員から増資預かり金として出資を賜りました。また、組合からも出資助成金を拠出しています。次年度以降もご協力いただくことから、現時点では預かり金として保管し、登記時点で出資金に振り替えさせていただきます。

出資金 1 口あたり 5,000 円 (内 1,000 円助成) × 394 口 = 1,970,000 円

③情報の共有化

ホームページとは別に、役員・オペレーターの情報交換網としてグループウェア「デスクネット」を導入しました。連絡事項やトピックスを紹介して、スケジュール管理に役立てています。今後、オペレーター出役状況確認などに活用してまいります。

④ 視察受け入れ状況 (別紙参照)

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
先数	8	17	9	22	46	104	134	82	75	74	50
人数	247	403	267	408	918	1,760	2,494	1,439	1,336	974	736

これまでに、延べ 621 団体、10,982 人の方が来村されました。

⑤ 今年度の掲載記事

メディア	月日	内 容
毎日新聞	5/21	「酒人ふあ〜む」全国大会へ
毎日新聞	6/12	全員参加や分業評価〜「酒人ふあ〜む」現地審査
毎日新聞	7/9	「和」と「輪」で優秀賞〜甲賀の「酒人ふあ〜む」
日本農業新聞	9/15	採種大豆が 4 割増〜甲賀市の 2 集落法人
日本農業新聞	10/5	農事組合法人経営を見学〜韓国江原道農魚村指導者
毎日新聞	12/4	農業コン・毎日農業記録賞〜県内入賞者集う

⑥ 先進地に学ぶ

酒人田園環境愛護会とタイアップし、「アドベリー生産協議会」「たかしま有機農法研究会」を、また理事研修として「勝部農場」「スガノ農機」を視察しました。学んだことを経営に活かしてまいります。



毎日新聞全国農業コンクール全国大会優秀賞 特集

「酒人ふあゝむ」全国大会へ

第59回全国農業コンクール（毎日新聞社・青森県主催、農林水産省など後援、株式会社クボタなど協賛）の中央審査会で、全国大会で発表する20代表に県内から農事組合法人「酒人ふあゝむ」（甲賀市水口町酒人の「人の輪と集落の和」平成の村おこしで儲ける農業！！）が選ばれた。7月8日に青森市文化会館で開かれる全国大会、理事生産部長の伴慎也さん（54）が発表する。

【柴崎達矢】

7月青森で全国農業コン 「人の輪と集落の和」を発表

酒人地区では、90年ごろから有志が集まり、「集落営農ビジョン」として協業経営を検討していた。同地区は元々小規模な農地の集まりで、水の利便も農作業の効率も悪かった。



組合員からの信頼も厚い「酒人ふあゝむ」の小林組合法人代表者 伴慎也さん。甲賀市水口町酒人で

た。兼業農家が多く、後継者難もあり「個別では農業は続けられない」と、地域での協同作業を始めた。1戸ごとに区切られていた田んぼを数戸ごとに統合し、効率化。99年に営農組合となり、02年12月に農事組合法人としてスタートした。

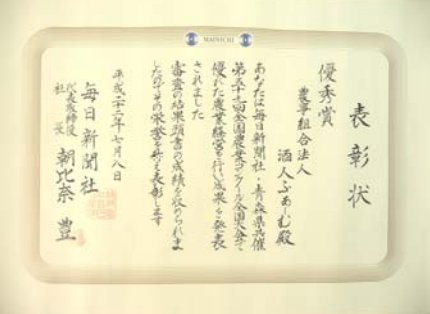
「ふあゝむ」は、▽大型機械で作業する「オペレーター」▽野菜栽培の「なごやか管理」▽平日の作物管理と収穫を担当する「すこやか営農」▽雑草取りを行う「やすらぎ営農」の4グループで構成。「オペレーター

には55歳の年齢制限をつける一方、「や」は80歳以上で、高齢者がコミュニケーションを交わしながら地域貢献できるよう計られている。このシステムにより、平日作業できない人の田畑の作業も、集団でこなせるようになった。

小林伊佐治組合法人代表者（69）は「みんな農作業に出たいという意志があるし、資金的にも悪くない」と話す。福西義幸組合法人代表者（63）は「後継者難の農家だが、集団化により、若い世代にも参加しやすい環境は作られた」と、次世

この他、農事組合法人相模アグリクリンファーム（長浜市の「既成田集落から法人化」新技術・新品目導入で低コスト農業の実践）琵琶湖に優しい農業の実践「毎日新聞大津支局長賞」に選ばれた。

毎日新聞 平成 22 年 5 月 21 日



全国農業コンクール 「和」と「輪」で優秀賞 甲賀の「酒人ふあゝむ」



優秀賞を受賞し、表彰される伴慎也さん。青森市の青森市文化会館で

第59回全国農業コンクール（毎日新聞社・青森県主催、農林水産省など後援、株式会社クボタなど協賛）の全国大会が8日、青森市で開かれ、甲賀市水口町酒人、農事組合法人「酒人ふあゝむ」（小林伊佐治組合法人）は優秀賞に輝いた。

大会では生産部長の伴慎也さん（54）が「人の輪と集落の和 平成の村おこしで儲ける農業」の題でこれまでの歩みを発表した。資金集めで苦勞をしながらも法人化したのは、小規模経営に加え後継者

難の地域で「個別では続けられない」と考えたから。作業部門を四つに分け、機械の扱いは比較的若い層に任せると部門ごとに適材を配置。若い世代も参加しやすかった。効率化により余った時間

で、稲作以外も力を入れられるようになり、野菜作りにも励む。伴さんは「自分たちのテーマである、集落の和、人の輪を、ずっとつないでいきたい。（法人の）若い人に頑張ってもらい、10年後には（全国農業コンクールで）グランプリを取ってもらいたい」と語った。【山田研】

毎日新聞 平成 22 年 7 月 9 日

【平成22年度来視状況】

月 日	来 視 先	内 容	人数
1/17	安土町城南土地改良区	先進事例視察	16
1/24	甲南町野尻 友愛農業勉強会	先進事例視察	15
1/26	兵庫県神崎郡神河町担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	30
1/27	宮崎県西諸県郡高原町土地改良区	先進事例視察	12
2/3	スガノ農機株式会社一宮営業所	先進事例視察	1
	近畿農政局 企画調整室長	公開討論会打合せ	2
2/7	東近江市南花沢町緑と水環境を守る会	先進事例視察	13
	長野県JA上伊那機械銀行西春近支店	先進事例視察	20
2/9	兵庫県土地改良事業団体連合会丹波支部	先進事例視察	24
2/17	兵庫県丹波市集落営農組織連合会	先進事例視察	30
2/18	兵庫県朝来市大蔵ふるさとネットワーク	先進事例視察	8
2/22	岐阜県恵那市岩村地区農業振興協議会	先進事例視察	15
2/25	滋賀県立農業大学校 作物専攻生	校外研修	4
3/4	秋田県仙北地域振興局農林部普及指導課	先進事例視察	4
3/7	福井県越前市大虫本町みどりネット	先進事例視察	20
	東近江市池庄町環境保全活動協議会	先進事例視察	14
3/11	兵庫県上郡町地域担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	39
3/14	福井県越前市森久地区緑を守る会	先進事例視察	20
6/8	(株)NTTデータ経営研究所	研究調査	1
6/11	全国農業コンクール事務局	現地審査	8
7/15	岐阜県揖斐川町北方地域資源保全隊	先進事例視察	16
7/17	岩手県胆江地方農業振興協議会	先進事例視察	7
	佐賀県福富営農生産組合	先進事例視察	13
7/20	石川県橋岡営農組合	先進事例視察	18
7/24	大津市 農事組合法人ふぁーむ牧	先進事例視察	12
7/29	鹿児島市農業委員会	先進事例視察	10
8/28	兵庫県洲本市下内膳農地・水・環境保全隊	先進事例視察	36
9/10	栃木県農政部経営技術課長ほか	先進事例視察	3
9/27	韓国江原道 農魚村指導者	先進事例視察	33
9/28	農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整係長ほか	現地調査	4
10/8	鯖江市担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	40

月 日	来 視 先	内 容	人数
10/13	京都大学文学部地理学専修4回生	学術研究・卒論	1
10/18	長野県山形村議会	先進事例視察	7
10/19	愛媛県JA周桑農業振興協議会小松支部	先進事例視察	17
10/21	岡山県新見市農業委員会	先進事例視察	23
11/ 1	金沢市農業委員	先進事例視察	5
11/ 3	高島市安曇川町中野農村保全活動組織	先進事例視察	15
11/ 6	福井県若狭町天徳寺(農)名水うりわり農園	先進事例視察	22
11/ 9	長野県中信平右岸土地改良区	先進事例視察	14
	富山県小矢部市農業組織協議会	先進事例視察	18
11/10	石川県七尾鹿島土地改良推進協議会	先進事例視察	14
	石川県鹿島郡下井田圃場整備組合	先進事例視察	16
11/12	京都大学文学部地理学専修4回生	学術研究・卒論	1
11/27	亀岡市大井町並河農家組合	先進事例視察	18
	奈良県五條市山陰土地改良区	先進事例視察	37
12/ 3	越前市広瀬水と自然環境を守る会	先進事例視察	16
12/11	近江八幡市小船木町営農組合	先進事例視察	10
12/14	福岡県朝倉農林事務所地域振興課	先進事例視察	1
12/17	経済産業省近畿経済産業局	ヒアリング	4
12/20	宮崎県日南市議会	先進事例視察	9
合 計	50先(前年度比 - 24先)	736人(前年度比 - 238人)	

【平成22年度講師派遣】

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
1/31	JA越前たけふ	福井県越前市担い手協議会	集落営農塾
2/14	大阪ABCホール	農林水産省フードアクションニッポン推進本部	公開討論会
3/ 3	三重県鈴鹿研究学園都市センター	三重県	集落営農推進研修会
3/ 4	鈴鹿市稲生	稲生土地改良区	勉強会 意見交換会
5/25	東近江市	JAグリーン近江	第6次中計キックオフ大会
6/ 1	甲良町公民館	甲良町教育委員会	老壮大学
8/12	福井県越前町	財福井県農林水産支援センター	セミナー座談会
8/20	福井県小浜市	財ふくい農林水産支援センター	雇用園芸研修会

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
9 / 21	近江八幡市北津田町	J A グリーン近江	法人化取組方法
10 / 18	近江八幡市池田本町	J A グリーン近江	法人化取組方法
11 / 20	近江八幡市南津田町	J A グリーン近江	法人化取組方法
12 / 14	全国農業共済協会	農業共済新聞新年号特集座談会	座談会

【平成22年度受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1 / 15	水口町良質米研究会	伴	研修会
1 / 27	花野果倶楽部肥料農薬研修会	伴	研修会
1 / 28	水口納税協会	福西	講演会 賀詞交歓会
1 / 29	イチジク先進地視察研修会	伴	視察
1 / 30	アドベリー生産協議会 たかしま有機農法研究会	愛護会共同 18名	視察研修
2 / 2	戸別所得補償モデル対策意見交換会	福西、伴	研修、意見交換
2 / 3	大規模稲作経営者部会	伴	佐藤食品工業視察
2 / 10	花野果倶楽部視察研修	すGなG17名	J A あいち知多
	水口町露地野菜部会	西村伊	野菜作付計画会議
2 / 22	水口町露地野菜部会	すこやかG長	J A 甘楽富岡視察
2 / 26	5 J A 合同農業機械展示会	西村	機械展示見学
3 / 1	大規模稲作経営者部会	伴	総会
3 / 4	甲賀地域担い手育成総合支援協議会	西村	経営体ヒアリング
3 / 8	滋賀県担い手育成総合支援協議会	伴	担い手セミナー
3 / 12	甲賀地域農業センター	伴、すこやかG長	イチジク研修
3 / 15	花野果倶楽部	伴	総会
3 / 18	日本政策金融公庫	山領	農商工連携フォーラム
3 / 22	先進地視察「勝部農場」	理事6名	理事研修
3 / 23	先進地視察「スガノ農機」	理事6名	理事研修
3 / 23	大規模稲作経営者部会	西村伊	ヒノヒカリ研修
3 / 29	水口町露地野菜部会	伴、すこやかG長	総会
4 / 23	水口町良質米研究会	伴	総会
5 / 6	かぼちゃ栽培現地研修会	すこやかG長	研修会
5 / 25	経営体育成交付金ヒアリング	西村、伴	導入予定機械ヒアリング
5 / 27	大規模稲作経営者部会	伴	研修会

月 日	研 修	出 席 者	内 容
6 / 4	水稻育苗箱を利用したトマト栽培研修	伴、なごやかG	研修
6 / 10	大豆種子採種計画会議	伴	会議
6 / 11	いちじく部会設立総会	伴	総会
6 / 15	かぼちゃ栽培現地研修会	伴、すこやかG	研修会
6 / 24	水口町露地野菜部会	伴、すこやかG	作付計画会議
7 / 1	全国農業コンクール全国大会強化練習	伴、理事ほか	合同練習
7 / 5	全国農業コンクール全国大会強化練習	伴、理事ほか	合同練習
7 / 15	花野果倶楽部	伴	野菜栽培講習
7 / 26	J A甲賀郡稲わら生産供給組合	伴	総会
7 / 27	近畿農業・農村6次産業倶楽部	伴	設立会
7 / 28	南瓜出荷に伴う規格の目合わせ会	すこやかG	規格目合わせ
8 / 5	キャベツ栽培研修会	伴	研修会
8 / 9	滋賀県農業法人協会通常総会	伴	総会
8 / 10	農商工連携セミナー	山領、伴	セミナー
8 / 18	J Aこうかいいちじく生産部会	伴、すこやかG	出荷目あわせ
8 / 26	J A甲賀郡稲わら生産供給組合	伴	検討会
9 / 4	田舎と都市のつながりづくり講演会	福西	講演
9 / 9	アグリ・エコビジネスセミナー	福西、伴	セミナー
10 / 12	キャベツ栽培研修会	伴	研修会
10 / 16	都市農村交流開講講座	福西、企画管理部	事例報告
10 / 27	甲賀地域集落営農法人情報交換会	福西	情報交換会
11 / 12	J A農業機械大展示会	伴、すこやかG	展示会
11 / 15	大豆指定種子生産ほ場審査会	伴	ほ場審査
11 / 22	秋冬野菜出荷会議	伴、すこやかG	圃場巡回出荷会議
11 / 29	日本政策金融公庫農業経営者交流会	福西	講演 交流会
12 / 1	大規模稲作経営者部会	伴	研修会
	こうかいいちじく生産部会出荷反省会	すこやかG	研修会
12 / 24	契約キャベツ出荷の規格目合わせ会	すこやかG	目合わせ会

【平成22年度表彰受賞】

月 日	内 容	出 席 者	会 場
7 / 8	第59回全国農業コンクール全国大会優秀賞	伴（理事応援）	青森市文化会館

貸借対照表

農事組合法人酒人ふぁーむ

2010年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	47,343,581	【流動負債】	13,457,028
現金・預金	20,144,105	未払金	11,069,210
売掛金	11,013,764	リース債務	345,618
農産物	44,100	未払法人税・預り金等	2,042,200
棚卸品	2,561,672	【固定負債】	67,759,781
未収金	4,772,942	長期借入金	58,000,000
仮払金	8,806,998	長期リース債務	691,236
【固定資産】	56,087,653	農業経営基盤強化準備金	9,068,545
【有形固定資産】	55,488,322	負債の部合計	81,216,809
建築物	44,615,395	純資産の部	
構築物	3,820,382	【資本金】	4,480,000
機械装置	15,338,540	出資金	4,480,000
農機具	34,078,005	【利益剰余金】	17,734,425
車両運搬具	2,630,000	利益準備金	4,480,000
工具器具備品	1,039,500	当期末処分剰余金	13,254,425
減価償却累計額	△50,951,569		
土地	2,844,361	純資産の部合計	22,214,425
リース資産	2,073,708	負債・純資産合計	103,431,234
【投資その他の資産】	599,331		
外部出資金	50,000		
保険積立金	549,331		
資産の部合計	103,431,234		

損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2010年 1月 1日 至 2010年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販 売 高	34,615,727	
奨 励 助 成 金	22,868,219	
販 売 高 合 計		57,483,946
【事業費用】		
【生産原価】		
期首農産物棚卸高	58,950	
当期農産物原価	40,414,701	
合 計	40,473,651	
期末農産物棚卸高	44,100	
事業原価	40,429,551	40,429,551
事業総利益		17,054,395
【事業管理費】		
事業管理費合計	6,490,389	6,490,389
事業利益		10,564,006
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受 取 利 息	4,891	
雑 収 入	2,022,898	
事業外収益合計		2,027,789
【事業外費用】		
支 払 利 息	672,429	
事業外費用合計		672,429
経常利益金額		11,919,366
【特別損益の部】		
【特別利益】		
その他特別利益	16,768,000	
特別利益合計		16,768,000
【特別損失】		
固定資産圧縮損	10,231,000	
前期損益修正損	108,041	
農業経営基盤強化準備金繰入	5,000,000	
特別損失合計		15,339,041
税引前当期純利益金額		13,348,325
法人税等		93,900
当期純利益金額		13,254,425

事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふあーむ

自 2010年 1月 1日 至 2010年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
福 利 厚 生 費	164,475
教 育 ・ 研 修 費	516,120
旅 費 交 通 費	490,830
広 告 宣 伝 費	1,098,104
通 信 費	169,097
交 際 費	680,220
諸 会 費	241,200
水 道 光 熱 費	42,887
事 務 用 消 耗 品 費	932,130
租 税 公 課	538,376
雑 費	634,525
税 務 顧 問 料	982,425
事 業 管 理 費 合 計	6,490,389

事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2010年 1月 1日 至 2010年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
【総事業費用】		
【資材費】		
種 苗 費	2,949,648	
肥 料 費	6,225,403	
農 薬 費	2,252,092	
諸 材 料 費	536,371	
合 計	11,963,514	
資 材 費 合 計		11,963,514
【労務費】		
農 業 労 災 費	194,572	
労 務 費 合 計		194,572
【その他生産費】		
農 具 費	63,219	
作 業 委 託 料	1,642,307	
土 地 改 良 水 利 費	2,452,620	
動 力 光 熱 費	1,660,767	
修 繕 費	6,131,828	
荷 造 運 賃 送 費	308,136	
租 税 公 課	24,352	
機 械 賃 借 料	238,723	
機 械 リ ー ス 料	92,400	
年 貢 料 (借 地 料)	5,158,406	
農 業 共 済 費	1,520,886	
雑 費	426,990	
減 価 償 却 費	8,535,981	
そ の 他 生 産 費 合 計		28,256,615
当 期 事 業 原 価		40,414,701
合 計		40,414,701
当 期 農 産 物 原 価		40,414,701

剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額	
当期末処分剰余金の処分		13,254,425
合 計		13,254,425
これを次のとおり処分する		
従事分量配当金		13,254,425
次期繰越剰余金		0

以上のとおり報告します。

農事組合法人酒人ふぁーむ

代 表 理 事	小林 伊佐治
理 事	林 信博
理 事	福西 義幸
理 事	西村 清秋
理 事	千廣 友次
理 事	伴 慎也
理 事	山領 茂

附属明細書

平成22年度予算実績対比

自2010年1月1日～至2010年12月31日

(単位千円)

勘定科目	平成22年度予算額		実績額		差異金額	
	金額	金額/反	金額	金額/反	金額	金額/反
[耕作面積]	換算407.8反		換算407.8反			
		407.8		407.8		0
[事業収益]						
[販売高]						
販売高	44,155	108	34,615	85	-9,540	-23
奨励・助成金	19,546	48	22,868	56	3,322	8
販売高合計	63,701	156	57,483	141	-6,218	-15
[事業費用]						
[期首農産物棚卸]			59		59	
[資材費]						
[生]種苗費	3,081	8	2,950	7	-131	0
[生]肥料費	6,297	15	6,225	15	-72	0
[生]農薬費	1,156	3	2,252	6	1,096	3
[生]諸材料費	576	1	536	1	-40	0
生産資材費合計	11,110	27	11,963	29	853	2
[労務費]						
[生]農業労災費	150	0	194	0	44	0
労務費合計	150	0	194	0	44	0
[その他生産費]						
[生]動力光熱費	1,378	3	1,661	4	283	1
[生]修繕費	4,000	10	6,195	15	2,195	5
[生]機械賃借料	300	1	239	1	-61	0
[生]年貢料(借地料)	5,945	15	5,158	13	-787	-2
[生]作業委託料	2,252	6	1,642	4	-610	-1
[生]土地改良水利費	2,965	7	2,453	6	-512	-1
[生]農業共済費	1,332	3	1,521	4	189	0
[生]生調拠出金	0	0	0	0	0	0
[生]機械リース料	346	1	92	0	-254	-1
[生]荷造運賃送料	600	1	308	1	-292	-1
[生]雑費	304	1	451	1	147	0
[生]減価償却費	8,500	21	8,536	21	36	0
その他生産費合計	27,922	68	28,256	69	334	1
[期末農産物棚卸]			44		44	
事業費用合計	39,182	96	40,428	99	1,246	3
[事業総利益]	24,519	60	17,055	42	-7,464	-18
[生]労務費(従事分量配当)	13,850	34	13,254	33	-596	-1
[改め事業総利益]	10,669	26	3,801	9	-6,868	-17
[事業管理費]						
事業管理費合計	3,300	8	6,490	16	3,190	8
[事業利益]	0	0	-2,689	-7	-2,689	-7
[事業外損益]	0		1,355	3	1,355	3
[経常利益]	0	0	-1,334	-3	-1,334	-3

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

平成22年度事業実績明細表

自 2010/1/1 ~ 至 2010/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	その他	合計
[耕作面積]	204.2反		176.5反		188.9反		9.7反		3.3反				406.1反
[事業収益]													
農産物売上高	21,994	108	2,219	13	7,388	39	1,222	126	625	189	0	0	33,448
その他売上高	973	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2,016	-1,821	1,168
奨励助成金	13,245	65	6,038	34	2,825	15	603	62	156	47	0	0	22,867
売上高合計	36,212	177	8,257	47	10,213	54	1,825	188	781	237	2,016	-1,821	57,483
事業原価													
期首棚卸	59				0								59
[資材費]													
[生]種苗費	1,822	9	510	3	252	1	404	42	85	26	2,016	-1,821	3,268
[生]肥料費	2,709	13	3,162	18	0	0	340	35	14	4	0	0	6,225
[生]農薬費	1,650	8	31	0	111	1	134	14	8	2	0	0	1,934
[生]諸材料費	272	1	11	0	86	0	86	9	81	25	0	0	536
資材費合計	6,453	32	3,714	21	449	2	964	99	188	57	2,016	-1,821	11,963
[労務費]													
[生]労災保険費	116	1	35	0	35	0	6	1	2	1	0	0	194
労務費合計	116	1	35	0	35	0	6	1	2	1	0	0	194
[経費]													
[生]動力光熱費	997	5	299	2	299	2	49	5	17	5	0	0	1,661
[生]農具修繕費	3,248	16	973	6	973	5	180	19	821	249	0	0	6,195
[生]機械賃借料	149	1	16	0	16	0	57	6	1	0	0	0	239
[生]年貢料(借地料)	3,097	15	928	8	928	5	154	15	51	15	0	0	5,158
[生]作業委託料	0	0	1,042	6	600	3	0	0	0	0	0	0	1,642
[生]農業水利費	1,472	7	441	4	441	2	74	8	25	8	0	0	2,453
[生]農業共済費	915	4	273	2	273	1	45	5	15	5	0	0	1,521
[生]生調拠出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]リース料	57	0	16	0	16	0	2	0	1	0	0	0	92
[生]荷造発送費	4	0	1	0	1	0	221	23	81	25	0	0	308
[生]雑費	280	1	76	0	78	0	13	1	4	1	0	0	451
[生]減価償却費	5,123	25	1,536	9	1,536	8	256	26	85	26	0	0	8,536
経費合計	15,342	75	5,601	32	5,161	27	1,051	108	1,101	334	0	0	28,256
期末棚卸	44				0								44
事業原価合計	21,926	107	9,350	53	5,645	30	2,021	208	1,291	391	2,016	-1,821	40,428
事業総利益	14,286	70	-1,093	-6	4,568	24	-196	-20	-510	-155	0	0	17,055
[生]労務費	5,236	26	1,200	7	2,891	15	2,951	304	976	296	0	0	13,254
改め事業総利益	9,050	44	-2,293	-13	1,677	9	-3,147	-324	-1,486	-450	0	0	3,801
[事業管理費]	3,896	19	1,168	7	1,168	6	194	20	64	19			6,490
事業利益	5,154	25	-3,461	-20	509	3	-3,341	-344	-1,550	-470	0	0	-2,689
[事業外損益]	816	4	243	1	243	1	40	4	13	4	0	0	1,355
経常損益	5,970	29	-3,218	-18	752	4	-3,301	-340	-1,537	-466	0	0	-1,334

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

監 査 報 告 書

平成 23 年 2 月 20 日

農事組合法人酒人ふぁ～む
代表理事 小林 伊佐治 様

監 事 東浦 常夫 ㊟

監 事 奥村 信行 ㊟

私たち監事は、平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日までの第 9 期事業年度の理事の職務の遂行、事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案並びに附属明細書について監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

- (1) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、組合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しており、組合財産の状況及びその他の事情に照らし、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 附属明細書については、特に指摘すべき事項は認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

以上

第五次3カ年事業計画（平成23年度～平成25年度）

〔基本テーマ〕

第一次3カ年（11年～13年）

「夢・創意・挑戦」 時代にマッチした農業経営

第二次3カ年（14年～16年）

「決断」と「実行」 「づくり」の時期

第三次3カ年（17年～19年）

「自立」と「自律」 夢（ビジョン）の具現化

第四次3カ年（20年～22年）

「農村」と「環境」 「生きていく」新たな挑戦

第五次3カ年（23年～25年）

「選択」と「集中」 安定経営への基盤構築

〔理念〕

1. 人づくり
2. 組織づくり
3. 産地づくり
4. 地域づくり
5. お客様づくり

〔基本方針〕

1. 将来に向けた経営資源の確保
2. 高収益基盤体制の確立
3. 販売ルートの大戦略
4. 人材育成と後継者の育成
5. お得意様との交流の場の拡大
6. IT活用による情報の共有化

TPPへの参加により将来の農業経営が大きく左右されます。現段階では、結論が出されていませんが、将来的には、農業分野においても自由貿易体制に入ることは十分に予測しておかなければなりません。

そこで、第五次中期計画は、昨年までの経営コンサルの指導や先進地研修等による情報収集結果を生かし、今後の安定した農業経営の持続できる経営体制の確立を具現化してまいります。

1. 将来に向けた経営資源の確保

補助金有効活用による農業機械投資が一巡し、今後はメンテナンスや更新への費用負担が増加する見通しから、余裕資金の確保と収益確保が最重要課題です。そのため、組合員のご協力を得ながら、昨年から4年間かけて現在の出資金を3倍まで増額することで自己資本の充実を図り、安定経営を目指します。

2. 高収益基盤体制の確立

消費者ニーズは、徹底した安価な商品と安心・安全な商品を選択するものが2分化する傾向にあることから、日本製品（商品）の高信頼性と高品質の信用から海外から日本製品を求める傾向は拡大するものと考え、当組合においても、安心・安全・高品質な商品生産への生産体制と生産技術の確立を図り高付加価値商品の生産戦略を推進いたします

こだわり農産物の生産からさらに徹底的にこだわった農産物（無農薬・無化学肥料）の生産へ、生産技術の蓄積を図り、実現に向けて対応してまいります。

3. 販売ルートの拡大戦略

前年は、パンフレット制作・HPのリニューアル・近隣団地へのポスティング等、販売促進戦略を実施してまいりましたが、農産物の販売の拡大が見えてくるまでに至ることができず、戦略展開の困難さを身に染みて感じました。

結論的には、こまめな営業展開・販路拡大・販売品目の充実・集客商品の品ぞろえなど学ぶところが多く、第5次中期計画にこれら具現化した戦略を展開することとします。

4. 人材育成と後継者の育成

担い手が高齢化する中、農業技術や農業経営に精通した人材を確保・育成するため、専従者制度の拡大と待遇改善を図り、少数精鋭による運営を進めます。

機械化作業率をさらに高めるため、オペレータの技術習得に重点を置いた教育体制をとり、就業機会を拡大すると同時にオペレータの資質向上を図り、従事分量配当金の月例仮払いを拡大し、勤労意欲の向上に努めてまいります。

5. お得意様との交流の場の拡大

お得意さんから生産者の顔の見える機会を極力拡大するため、定期的なイベント開催や顧客へ農業体験農地を開放し、顧客が酒人へ足を運んでもらえる機会の企画立案を行い具現化してまいります。

具体的には、収穫祭や定期的な直売会の開催、畑地の顧客への貸し出しにより農業体験機会を増やすことで、「ふれあいの場」づくりを企画推進してまいります。

6. IT活用による情報の共有化

昨年度までホームページのリニューアルやグループウェアの導入等を行いIT活用によるバックヤードの整備が完了したところであります。これからは、これらのツールを生かして販売促進活動や関係者間での情報共有を進め、お互いが見える体制を構築してまいります。

出役体制、栽培状況、イベント情報などをIT設備の利用による効率的な運用拡大を図ってまいります。

平成23年度事業計画書

生産部

今年度から、麦・大豆を含めた戸別所得補償制度が本格実施されるほか、国においては「食と農林漁業の再生推進本部」で持続可能な力強い農業を育てるための対策が検討されています。また6次産業化を推し進めるための施策が講じられています。さらに、TPPなど農業の根幹を崩す議論がなされ、農家の生活を脅かす状態にあります。

しかし、我が集落組織は、このような新政策や情勢を的確に把握しつつ、今までの作付け方針を維持しながら、攻めの農業を考え、食糧、農業、農村を担っている農業法人としての誇りと使命をもって取り組みます。

栽 培

- ・営業部との両輪で「売るために作る」「求められているものを作る」をスローガンに安全、安心、顔の見える新鮮な食材を生産します。
- ・機械施設部と連携した農機の効率稼働による生産コスト削減に努めます。
- ・各グループとの連携をとり、野菜、果樹の栽培により力を入れます。

[重点方針]

1. 品質・環境に配慮した農業
減化学肥料、減農薬栽培技術の修得及び無農薬・無化学肥料への取組
2. 売価に見合った生産原価
コスト意識と営業意識の徹底
3. 的確な栽培管理
増収、品質アップ、安定技術による生産工程管理の実施
4. 新規作物・新技術の導入
イチジク栽培の定着と学校給食（食育畑）への対応強化

[事業計画]

2ブロックローテーションによる計画の完全達成!!

①23年度穀類生産計画

水		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
稲	うるち玄米	2,070.8	510	8.5	105,610	1,760.1
	もち(羽二重)玄米	322.4	480	8.0	15,475	257.9
	合計	2,393.2	506	8.43	121,085	2,018

小		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
麦	農林61号	1,522.9	300	5	45,687	761
	合計	1,522.9	300	5	45,687	761

大		栽培面積 (a)	10a当り		生産量		
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)	
豆	ふくゆたか	種子用	1,058.9	180	3	19,060	318
		食糧用	464.0	210	3.5	9,744	162
	合計	1,522.9	190	3.17	28,804	480	

② 23年度野菜栽培形態別生産計画

露	品目	栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
地	ブロッコリー	40.0	500	100箱	2,000	400箱
	白菜	35.0	3,000	200箱	10,500	700箱
	えびす南瓜	40.0	1,000	100箱	4,000	400箱
	キャベツ	30.0	5,000	25コンテナ	15,000	75コンテナ
	いちじく	23.6				1,500パック
	ねぎ	7.0	4,500	300箱	3,150	210箱

ハ	品目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
ウ	小松菜	12.0	120	600袋	1,440	7,200袋
	トマト	4.0	400	100箱	1,600	400箱
	いちじく	3.0				200パック

③ 23年度耕畜連携稲わら生産計画 (JA稲わら生産供給組合)

稲	わ	ら	採集面積 (a)	10a当り		生産量	
				収集量 (kg)	梱包 (10kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
			1,200	400	40	48,000	4,800
			合計	400	40	48,000	4,800

労 務

効率的な作業体制確立のため、企画管理部と共に経営認識を高揚するハード面での体制整備を行い、役員専従・OP専従への労務見通しと同時に農作業のマニュアル化を図ります。

[重点方針]

1. プロらしく＝プロ専従で効率作業
2. プロが耕す＝目指すはプロとしての農地保全
3. 未然に防ごう労働災害＝ユニホーム着用するのがプロ

[事業計画]

- ① 作業手順の確立
作業マニュアルの作成による稼ぐための労務
- ② 就労時間が作物別収支のバロメーター
作物別労務配分の強化と予実管理の徹底

【作物別労働時間計画】

(単位：時間)

	水稻		小麦	大豆	露地 野菜	ハウス 野菜	共通	合計
	栽培・ 収穫	稲わら 収集	栽培・ 収穫	栽培・収穫 手選別	栽培・ 収穫	栽培・ 収穫	営業・事 務・施設	
配分 率	20%	3%	4%	23%	25%	12%	13%	100%
1月	50			1,200	200	90	150	1,690
2月	50			900	200	100	300	1,550
3月	80		30		150	100	100	460
4月	300		20		150	100	100	670
5月	500		80		200	100	80	960
6月	130		180	50	300	140	100	900
上期	1,110	0	310	2,150	1,200	630	830	6,230
7月	150			150	350	140	150	940
8月	150			50	350	140	120	810
9月	600	100		50	500	140	120	1,510
10月	400	290	50	50	400	180	170	1,540
11月	90		140	40	200	170	200	840
12月	100		20	500	250	160	100	1,130
下期	1,490	390	210	840	2,050	930	860	6,770
合計	2,600	390	520	2,990	3,250	1,560	1,690	13,000

営 業 部

TPP 加入問題が大きく取り上げられている今日、わが営業部では、消費者に食の安全、安心をアピールし、将来を見据えた販売方法を確立していきます。具体的な販売活動として酒人製品の販売会を実施します。

[重点方針]

1. 米の販路拡大戦略
6次産業化「志、農、工、商」で未来を拓く。
2. 農産物の地域ブランド戦略
売るために、村の文化を物語りに変え。

[事業計画]

- ① 米の販売強化
縁故米の更なる推進
近隣地区への販売促進
インターネットを利用した販売促進
- ② 酒人製品の拡販
販売会等イベント開催

①23 年度穀類市場（マーケット）別販売計画

水	業 販		出荷量 (俵)	出荷単価 (円/俵)	販売高 (千円)
		うるち玄米	1,160	10,400	12,064
		もち(羽二重)玄米	238	15,400	3,665
		小 計	1,398	11,251	15,729
稲	直 販		販売量 (俵)	販売単価 (円/俵)	販売高 (千円)
		うるち玄米	600	15,600	9,360
		もち(羽二重)玄米	20	20,200	404
		小 計	620	15,748	9,764
		合 計	2,018	12,632	25,493

小麦	業 販		出荷量 (俵)	出荷単価 (円/俵)	販売高 (千円)
		農林61号	761	1,600	1,217
		合 計	761	1,600	1,217

大豆	業 販		出荷量 (俵)	出荷単価 (円/俵)	販売高 (千円)
	ふくゆたか	種子用	318	24,300	7,727
		食糧用	162	3,230	523
		小 計	480	17,188	8,250
大豆	直 販		販売量 (俵)	販売単価 (円/俵)	販売高 (千円)
	ふくゆたか	種子用	-	-	-
		食糧用	-	-	-
		小 計	-	-	-
	合 計	480	17,188	8,250	

②23 年度野菜栽培形態別販売計画

露地	品 目	出荷量	売価単価 (円)	販売高 (千円)
	ブロッコリー	400 箱	1,000	400
白 菜	700 箱	700	490	
えびす南瓜	400 箱	1,000	400	
地	いちじく	1,500 バック	400	600
	キャベツ	75 コンテナ	10,000	750
	ネギ	210 箱	2,000	420
	小 計			3,060
ハウス	品 目	出荷量	売価単価 (円)	販売高 (千円)
	小 松 菜	7,200 袋	70	504
	いちじく	200 バック	400	80
	ト マ ト	400 箱	1,050	420
小 計			1,004	
合 計				4,064

野菜市場 (マーケット) 別販売計画

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		中食・外食・食材企業		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (一)	販売高 (千円)
	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (袋、束、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	350	350	-	-	30	30	20	20	400	400
白 菜	675	473	-	-	20	14	5	3	700	490
えびす南瓜	380	380	-	-	20	20	-	-	400	400
いちじく	1,400	560	-	-	300	120	-	-	1,700	680
小松菜	6,900	483	-	-	300	21	-	-	7,200	504
キャベツ	70	700	-	-	5	50	-	-	75	750
ネギ	180	360	-	-	30	60	-	-	210	420
トマト	200	210	-	-	170	170	30	40	400	420
合 計	-	3,516	-	-	-	485	-	63	-	4,064

※業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

③耕畜連携稲わら販売計画 (JA甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲わら	業 販		出荷量(梱包)	出荷単価(円/梱包)	販売高(千円)
	飼料用稲わら	配 達	4,800	400	1,920
		引 取			
合 計		4,800	400	1,920	

※1 梱包=10kgとした場合

機械施設部

6次産業化への布石となる機械および施設の「攻め」の設備投資は、各部と連携して進めてまいります。今ある経営資源を活かしつつ効率化が図れるよう、今できることから「守り」を固めていきます。

つまり、補助金があるから投資をするのではなく、売るために今必要な投資であるかを吟味するとともに、経費を削減した低コスト農業に努めます。

[重点方針]

1. 6次産業化に向けた「攻め」の管理
2. 保有資源を見直し「守り」の管理
3. 低コスト農業のための自己管理

[事業計画]

- ① 6次産業化の対応と準備
 - ・ 6次産業化（目的）のための環境（手段）をつくります。
- ② 今できることから始める
 - ・ 機械設備に強いオペレーターの養成とともに誰もが操作できるようマニュアルをつくります。
 - ・ みんなの共有財産である意識を醸成し、丁寧な取扱いを心がけます。
- ③ コストをおさえた経営
 - ・ 将来の維持コストと更新コストを考えた投資判断と経費圧縮に努めます。



投資計画(平成23年度～25年度) (単位 円)

年度	投資予定資産	取得費	※交付金	自己負担
23年度	スガノバーチカルハロー 2.3m DC230SP (22年度引継=機種変更)	1,495,000	448,500	1,046,500
	コバシ3連中耕ディスク 2台 DC301	1,200,000	360,000	840,000
24年度	シズオカ遠赤乾燥機 50石×2台 山本色彩選別機 YFG-2000 精米機・計量器・パック包装机 ライスセンターライン設置工事含む	10,150,000	5,075,000	5,075,000
	米ぬか乾式ペレット成形機 タイワ精機(まぜコンビ・乾ペレくん)	1,850,000	925,000	925,000
	大豆選別機 大豆・白米兼用色選機	5,600,000	2,800,000	2,800,000
25年度	農産物加工販売施設(鉄骨平屋)190㎡ (厨房店舗器具・備品は別途)	8,000,000	4,000,000	4,000,000
	同 外構整備 (駐車場・排水設備等)	1,500,000	750,000	750,000
合 計		29,795,000	14,358,500	15,436,500

※ 助成は概算見込み額 23年度=経営体支援事業(30%助成)
24年度・25年度=6次産業化推進整備事業(50%助成)

企画管理部

[重点方針]

1. 「管理」から「企画」・「実践」に重心をおいた部内運営
2. 農業自由化への対応～安定した経営基盤の確立
3. 6次産業化への対応～当地にあった仕組みづくり
4. 魅力のある、働きがいのある組織体制づくり

[具体的実施内容]

1. 付加価値の高い商品開発にチャレンジ

当部は、平成18年に企画開発部と総務部を統合し開設されました。組織全体の企画管理を業務とし、「守り」を担当してまいりました。付加価値の高い特産物および商品の開発を目指し、少ロットでの試験生産・試作によるノウハウの蓄積と生産技術の確立を図ります。

当部が実験することでリスクを抑えることができます。6次産業化を含めた「攻め」の新事業を提案していきます。

2. 作業出役しやすい環境づくり

①「専従者制」の導入

事業に専念いただく理事と役員以外の特定オペレーターを専従者と位置づけ、従事分量配当の前払いとした月次定例賃金支払いを一部実施することにより、出役意欲の向上につながることを期待しています。

資金余力と事務処理体制ができた段階で、定例払いを拡大していきます。

②連絡体制・情報共有のシステム化

生産部と連携し、ITを利用した連絡網をより活用しやすくし、参画意欲を喚起します。また、作付状況や作業情報など話題と情報を発信していきます。

③誰もが作業出役できる仕組みづくり（人材の発掘）

区内は人材の宝庫です。組合員や構成員にとらわれず、区民が自由に出役できる仕組みを検討していきます。

3. 低コスト農業の実現

費用項目を精査点検し、ムダとロスを抑えます。参画者には採算や効率を意識してもらい、結果がフィードバックされる仕組みを検討していきます。

4. 貸農園事業の開始

所有から利用の時代。耕作放棄地対策として、畑地の一部を貸農園として区内外の農業意欲のある方に広く貸出し、耕作者と組合とのふれあいの場として利用促進を図ります。

5. 利用権の設定

農業委員会に利用権（期間更新）を認めてもらうことで、これまで築いてきた農地集積を維持継続することができます。地権者のメリットを考慮しながら進めてまいります。ご賛同よろしくお願い申し上げます。

平成23年度事業計画明細書

自 2011/1/1 ~ 至 2011/12/31

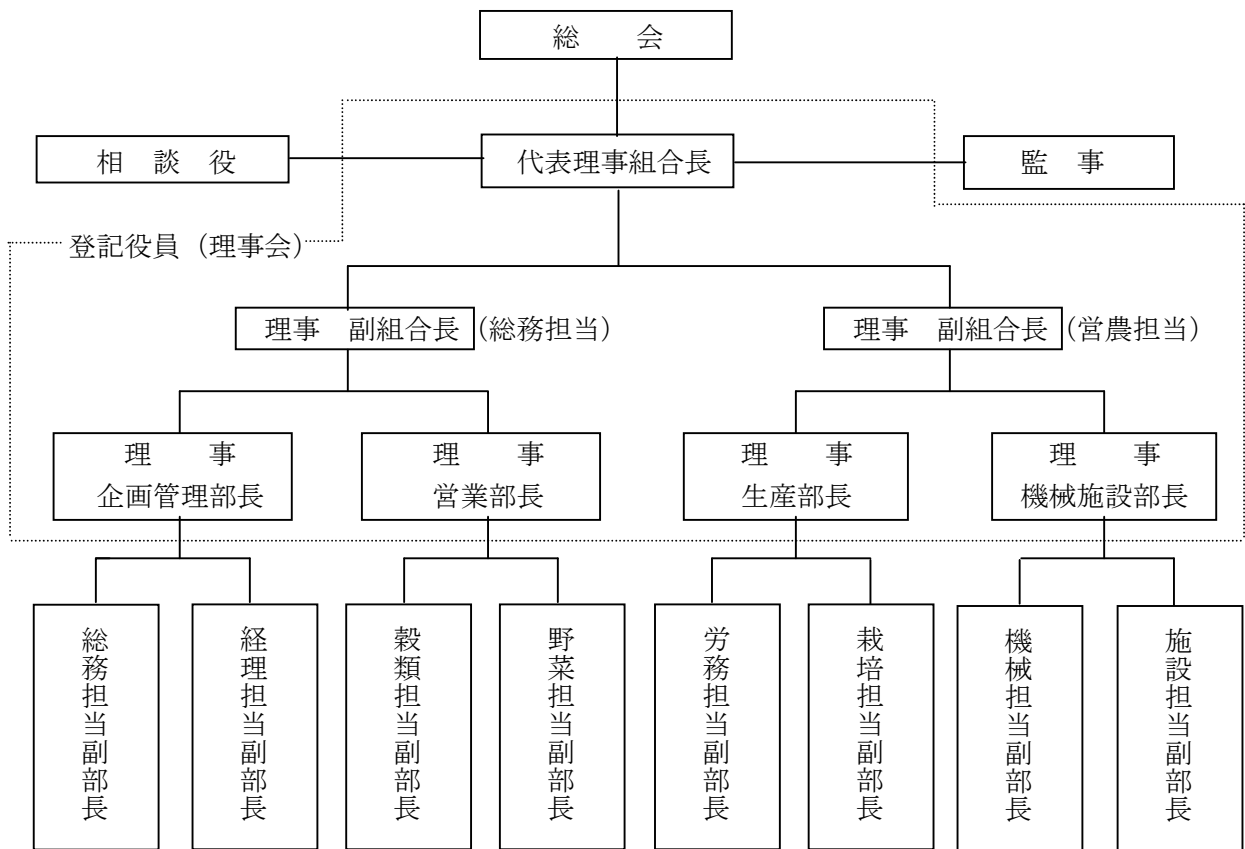
単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	その他	合計
[耕作面積]	239.3反		152.3反		152.3反		13.3反		3.3反				408.2反
[事業収益]													
農産物売上高	25,493	107	1,217	8	8,250	54	3,060	230	1,004	304	0	0	39,024
その他売上高	1,920	8	0	0	0	0	0	0	0	0	2,300	-2,100	2,120
奨励助成金	7,200	30	7,000	46	4,200	28	500	38	100	30	0	0	19,000
売上高合計	34,613	145	8,217	54	12,450	82	3,560	268	1,104	335	2,300	-2,100	60,144
事業原価													
期首棚卸	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
[資材費]													
[生]種苗費	2,100	9	383	3	202	1	550	41	150	45	2,300	-2,100	3,585
[生]肥料費	3,297	14	2,573	17	0	0	400	30	100	30	0	0	6,370
[生]農薬費	2,100	9	91	1	164	1	200	15	30	9	0	0	2,585
[生]諸材料費	239	1	148	1	32	0	50	4	100	30	0	0	569
資材費合計	7,736	32	3,195	21	398	3	1,200	90	380	115	2,300	-2,100	13,109
[労務費]													
[生]労災保険費	75	0	34	0	34	0	5	0	2	1	0	0	150
労務費合計	75	0	34	0	34	0	5	0	2	1	0	0	150
[経費]													
[生]動力光熱費	1,000	4	300	2	300	2	100	8	0	0	0	0	1,700
[生]農具修繕費	2,043	9	883	6	945	6	96	7	33	10	0	0	4,000
[生]機械賃借料	0	0	0	0	0	0	200	15	50	15	0	0	250
[生]年貢料(借地料)	2,980	12	970	8	970	6	150	15	50	15	0	0	5,120
[生]作業委託料	0	0	1,500	10	700	5	0	0	0	0	0	0	2,200
[生]農業水利費	1,400	6	450	4	450	3	80	6	20	6	0	0	2,400
[生]農業共済費	400	2	300	2	700	5	20	2	30	9	0	0	1,450
[生]生調拠出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]リース料	0	0	0	0	50	0	50	4	0	0	0	0	90
[生]荷造発送費	0	0	0	0	0	0	450	34	150	45	0	0	600
[生]減価償却費	5,240	22	1,700	11	1,700	11	270	20	90	27	0	0	9,000
[生]雑費	290	1	90	1	90	1	20	2	10	3	0	0	500
経費合計	13,353	56	6,193	41	5,905	39	1,436	108	433	131	0	0	27,320
期末棚卸	50	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	100
事業原価合計	21,158	88	9,422	62	6,287	42	2,641	199	815	247	2,300	-2,100	40,523
事業総利益	13,455	56	-1,205	-8	6,163	40	919	69	289	88	0	0	19,621
[生]労務費	5,700	24	1,200	8	3,000	20	3,000	226	1,000	303	0	0	13,900
改め事業総利益	7,755	32	-2,405	-16	3,163	21	-2,081	-156	-711	-215	0	0	5,721
[事業管理費]	2,320	10	760	5	760	5	120	9	40	12	0	0	4,000
事業利益	5,435	23	-3,165	-21	2,403	16	-2,201	-165	-751	-228	0	0	1,721
[事業外損益]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常損益	5,435	23	-3,165	-21	2,403	16	-2,201	-165	-751	-228	0	0	1,721

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

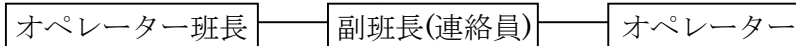
農事組合法人酒人ふあ～む組織図

平成 23 年 2 月 27 日現在



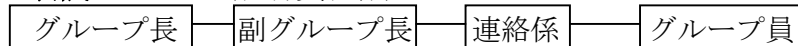
酒人ふあ～む協力組織

① オペレーターグループ (ふあ～む直轄)



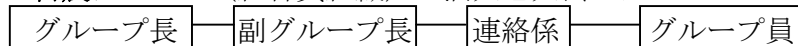
☆酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で
営農意欲のある 20 歳以上 55 歳以下の男子 (登録制)

② なごやか営農グループ (組合員組織)



☆酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業) に出役頂ける
56 歳以上 65 歳未満の男子及び 20 歳以上 65 歳未満の女子

③ すこやか営農グループ (組合員組織) ~酒人老人会のメンバー



☆シルバー世代の酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業)
の一部を担当頂くグループ

④ やすらぎ営農グループ (ボランティア) ~酒人敬老会の大関・横綱グループ

☆囲炉裏端会議のメンバーで、雑草取りの名人

【表紙の解説】



区民集合写真（パンフレット掲載）



全国農業コンクール全国大会（優秀賞受賞）



酒人区とのコラボ企画「酒人区民体育大会&直売所（即売会）」



理事研修



なごやか営農グループ



オペレーターグループ



すこやか営農グループ



ポスティング営業



新パンフレット



ホームページリニューアル



農事組合法人 酒人ふあ〜む

2011/2/27